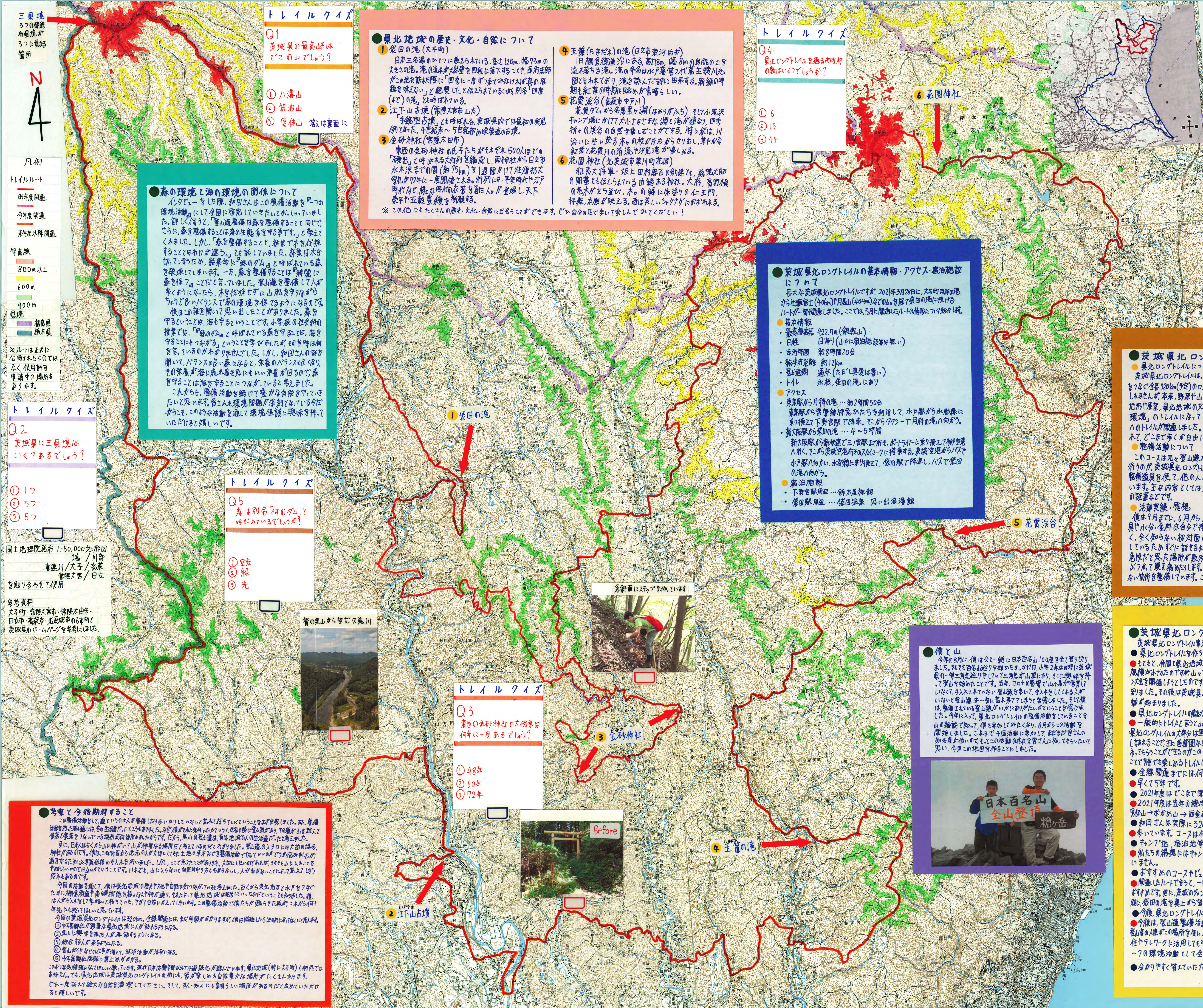
茨城県北ロングトレイルMAP

茨城大学教育学部
附属中学校

甲野藤 秀文



凡例

トレイルルート
- 昨年度開通
- 今年度開通
- 来年度以降開通

等高線
- 800m以上
- 600m
- 400m

県境
- 福島県
- 栃木県

※ルートは正式に公開されたものではなく、使用許可申請中の場所もあります。

国土地理院発行 1:50,000地形図
塙／川部
喜連川／大子／高萩
常陸大宮／日立
を貼り合わせて使用

参考資料
大子町・常陸大宮市・常陸太田市・日立市・高萩市・北茨城市の6市町と茨城県のホームページを参考にしました。

トレイルクイズ

Q1
茨城県の最高峰はどこの山でしょう？

① 八溝山
② 筑波山
③ 男体山

答えは裏面に

トレイルクイズ

Q2
茨城県に三県境はいくつあるでしょう？

① 1つ
② 3つ
③ 5つ

トレイルクイズ

Q3
東西の金砂神社の大祭礼は何年に一度あるでしょう？

① 48年
② 60年
③ 72年

トレイルクイズ

Q4
県北ロングトレイルを通る市町村の数はいくつでしょうか？

① 6
② 15
③ 44

トレイルクイズ

Q5
森は別名「何のダム」と呼ばれているでしょうか？

① 空気
② 緑
③ 光

●県北地域の歴史・文化・自然について

① 袋田の滝（大子町）

日本三名瀑のひとつに数えられている、高さ120m、幅73mの大きさの滝。滝の流れが大岩壁を四段に落下することや、西行法師がこの地を訪れた際に「四季に一度ずつ来てみなければ真の風趣を味えない」と絶賛したと伝えられていることから別名「四度（よど）の滝」とも呼ばれている。

② 江下山古墳（常陸大宮市山方）

「手鏡型古墳」とも呼ばれる、茨城県内では最初の発見例となった、4世紀末～5世紀初め頃築造の古墳。

③ 金砂神社（常陸太田市）

東西の金砂神社の氏子たちがそれぞれ500人ほどの「磯出」と呼ばれる大行列を編成し、両神社から日立市水木浜までの間（約75km）を1週間かけて往復する大祭礼が72年に一度開催される。行列には、平安時代や江戸時代など、様々な時代の衣装を着た人々が登場し、天下泰平や五穀豊穣を祈願する。

④ 玉簾（たまだれ）の滝（日立市東河内市）

旧棚倉街道沿にある、高さ18m、幅8mの岩肌の上を流れ落ちる滝。滝の命名は水戸藩第2代藩主徳川光圀と言われており、滝を詠んだ詩に由来する。新緑の時期も紅葉の時期も眺めが素晴らしい。

⑤ 花貫渓谷（高萩市中戸川）

花貫ダムから名馬里ヶ淵（なめりがふち）そして小滝沢キャンプ場にかけて大小さまざまな淵と滝が連なり、四季折々の渓谷の自然を楽しむことができる。特に秋は、川沿いに生い茂る木々の枝が左右からせり出し、華やかな紅葉と花貫川の清流や汐見滝が楽しめる。

⑥ 花園神社（北茨城市華川町花園）

征夷大将軍・坂上田村麻呂の創建とも、慈覚大師の開基とも伝えられている由緒ある神社。大杉、高野槇の老木が立ち並び、木々の緑に朱塗りの仁王門、拝殿、本殿が映える。春は美しいシャクナゲにおおわれる。

※この他にもたくさんの歴史・文化・自然に出会うことができます。ぜひ自分の足で歩いて楽しんでみてください！

●森の環境と海の環境の関係について

インタビューをした際、和田さんはこの整備活動を『一つの環境活動』にして全国に啓発していきたいとおっしゃっていました。詳しく伺うと、「登山道整備は森を整備することと同じで、さらに、森を整備することは森の生態系を守る事です。」と教えてくれました。しかし、「森を整備することと、林業で木を伐採することとはわけが違う。」とも話していました。林業は木を切ってしまうため、結果的に『緑のダム』と呼ばれている森を破壊してしまいます。一方、森を整備することは『綺麗に森を保つ』ことだと言っていました。登山道を整備して人が歩くようになったら、木を伐採せずに山肌を守りながらちょうど良いバランスで森の環境を保てるようになるのです。

僕はこの話を聞いて思い出したことがありました。森を守るということは、海も守るということです。小学校の社会科の授業では、「『緑のダム』と呼ばれている森を守ることは、海を守ることにもつながる」ということを学びましたが、その当時は何を言っているのかわかりませんでした。しかし、和田さんの話を聞いて、バランスの良い森になると、栄養のバランスも良くなり、その栄養が海に流れ着き魚にもいい栄養が回るので、森を守ることは海を守ることにつながっていると考えました。

これからも、整備活動を続けて豊かな自然を守っていきたいと思います。皆さんも環境問題が深刻となっている今だからこそ、このような活動を通して環境保護に興味を持っていただけると嬉しいです。

●茨城県北ロングトレイルの基本情報・アクセス・宿泊施設について

長大な茨城県北ロングトレイルですが、2021年3月28日に、大子町月待の滝から生瀬富士（406m）や月居山（404m）などの山々を経て袋田の滝に抜けるルートが一部開通しました。ここでは、3月に開通したルートの情報について紹介します。

● 基本情報

最高標高点	422.7m（鍋転山）
日程	日帰り（山中に宿泊施設等は無い）
歩行時間	約8時間20分
総歩行距離	約12km
登山適期	通年（ただし真夏は暑い）
トイレ	水根、袋田の滝にあり

● アクセス

- 東京駅から月待の滝…約2時間50分
  東京駅から常磐線特急ひたちを利用して、水戸駅から水郡線に乗り換えて下野宮駅で降車。そこからタクシーで月待の滝へ向かう。
- 新大阪駅から袋田の滝…4～5時間
  新大阪駅から新快速で三ノ宮駅まで行き、ポートライナーに乗り換えて神戸空港へ行く。そこから茨城空港行きのスカイマークに搭乗する。茨城空港からバスで水戸駅へ向かい、水郡線に乗り換えて、袋田駅で降車し、バスで袋田の滝へ向かう。

● 宿泊施設

- 下野宮駅周辺…鈴木屋旅館
- 袋田駅周辺…袋田温泉 思い出浪漫館

●茨城県北ロングトレイル整備活動について

● 県北ロングトレイルについて

茨城県北ロングトレイルは、茨城県最高峰八溝山（1022m）をはじめとした茨城県北部6市町をつなぐ全長320km（予定）のロングトレイルのことです。トレイルと言うとトレイルランニングをイメージするかもしれませんが、本来、野原や山の「小道」のことで、このコースは里と山を繰り返し訪れながら、地形や展望、県北地域の文化や歴史的遺構を体感しながら歩くことのできる「里山、地域環境」のトレイルになっています。2021年3月28日には大子町月待の滝から袋田の滝へのトレイルが開通しました。里山のため、アクセスに優れていてどこからでも歩き始められて、どこまで歩くか自由に決められるのが特徴です。

● 整備活動について

このコースは元々登山道があっても荒れている道が多く、整備を進めています。その整備を行うのが、茨城県北ロングトレイル協力隊です。様々な人がボランティアとして集まり、自分の整備道具を使って、他の人とも協力分担して毎月2回のペースで整備活動を進めています。主な内容としては登山道上の枝や草の伐採、急斜面へのステップ作り、道標の設置などです。

● 活動実績・感想

僕は9月までに、6月から月1回のペースで整備活動に参加しています。必要な整備道具や水分・食料は自分で持っていくので、登りづらくて大変です。中学生の参加は少なく、全く知らない初対面の大人もいますが、整備活動をしている人たちは、皆登山などをしているためすぐに話せるようになります。僕は、これまでに全国の様々な山に登ってきており、危険だと思った場所が数多くありました。例えば、木の先端が登山道上に伸びていてぶつかって頭を痛めたりします。このコースは里山で木が多くあるため、環境に配慮しながら危ない箇所を整備しています。これからも積極的に参加していきたいです。

●僕と山

今年の8月に、僕は父と一緒に日本百名山100座を全て登り切りました。そもそも百名山巡りを始めたきっかけは、小学2年生の時に茨城県の一等三角点巡りをしていて三角点が山頂にあり、そこに興味を持って登山を始めたことです。去年、コロナの影響で山小屋が営業していなくて、手入れされていない登山道を歩いて、手入れをしてくれる人がいないと登山道は一気に荒れ果ててしまうと実感しました。そして僕は、整備されている登山道がいかにありがたいかということを感じました。今年に入って、県北ロングトレイルの整備活動をしていることを山の雑誌で知って、僕も参加してみたくなり、6月からこの活動を開始しました。これまで4回活動に参加して、まだまだ皆さんの知名度が低いので、もっとこの活動の存在を皆さんに知ってもらいたいと思い、今回この地図を作ることにしました。

●茨城県北ロングトレイルプロジェクトインタビュー

茨城県北ロングトレイル事務局代表の和田幾久郎さんにインタビューをしました。

● 県北ロングトレイルを作ろうとしたきっかけは何ですか？

● もともと、仲間と県北地域でトレラン（トレイルランニング）をしていました。県北地域の山は一つ一つは規模が小さかったのですが、山々をつなげると県北地域の魅力が見えました。そこで、長距離のトレラン大会を開催しようとしたのですが、皆が参加できるという視点を見てロングトレイルを作るという構想に至りました。その後は茨城県などと一緒に研究会を作り、2年の歳月をかけてようやく整備活動が始まりました。

● 県北ロングトレイルの魅力は何ですか？

● 一般的にトレイルと言うと山の中だけを歩くというイメージがありますが、茨城は違います。茨城県北ロングトレイルの大部分は里山が中心となっています。その里山の利点を活かして、里と山を繰り返し訪れることで、主に首都圏などの自然があまりない所から訪れる人に、非日常の体験を手軽に味わってもらうことができるのがこのトレイルの大きな特徴です。更に、観光地と歴史的遺構をつなげることで誰でも楽しめるトレイルにしています。

● 全線開通までには何年くらいかかりますか？

● 早くて5年です。

● 2021年度はどこまで開通させる予定ですか？

● 2021年度は去年の続きを開通させる予定です。場所で言うと、鷲ノ巣山→長福山→男体山→おかめ山→西金砂山→県道の約50kmです。

● 和田さんは実際に320km歩かれているのですか？

● 歩いています。コースは何度も変更しており、これからも変更する可能性があります。

● キャンプ地、宿泊地等を整備する予定はありますか？

● 私たちの構想にはキャンプ地などもありますが、茨城県の事業内容には組み込まれていません。

● おすすめのコースやビューポイントなどはありますか？

● 開通したルートで言うと、一番初めの久慈川とその奥に水郡線が見える所が里山らしい風景でおすすめです。更に、茨城のジャンダルムと呼ばれる生瀬富士（406m）が360度の展望でおすすめです。最後に、袋田の滝を真上から望める所は荒々しい景色が見られておすすめです。

● 今後、県北ロングトレイルをどのようにしていきたいですか？

● 今後は、登山道整備活動だけではなく、県北振興の起点として広げていきたいですね。例えば登山客の人達がこの場所を気に入って何度も訪れることによって、この場所を好きになり、ゆくゆくは移住やテレワークに活用してもらう。このようなことを広げていきたいです。更に、この整備活動を一つの環境活動として全国に発信できるようにもしていきたいですね。

● 分かりやすく答えていただいた和田さん、ありがとうございました。

取材日 2021年8月31日

●考察と今後期待すること

この整備活動をして、道というのは人が整備したり歩いたりしていないと荒れて朽ちていくということをまず実感しました。また、整備活動を行った登山道には、昔の生活道だったところもありました。なぜ、僕がそれに気付いたかというと、民家の隣に登山道があり、その道が山を越えて集落と集落をつないでいる場所が何箇所もあったからです。だから、里山の登山道は、昔は地域の人の生活道だったと考えました。

更に、日本人は古くから山に神がいて山が神聖なる場所だと考えているのだとわかりました。登山道の入り口には大抵の場合、神社があるのです。僕は、このような昔から地元の人が大切にしてきた土地の草木などを整備活動で切っていいのかどうか悩みましたが、道を守るために必要最低限の手入れを行いました。しかし、ここで考えたことがあります。大切にしたいのであれば、そもそも山に入ることをやめたらいいのではないかということです。けれども、山に入らないと自然の守り方もわからないし、人が歩かないことによって荒れてしまう恐れもあるのです。

今回の活動を通して、僕は県北地域の歴史や文化や自然は全てつながっていると考えました。古くから東北地方と水戸をつなぐために棚倉街道や南郷街道を様々な人や物が通り、それによって県北地域は発展していったのだということも知りました。道は人が手入れをして歩かないと朽ちていき、やがて自然にかえってしまいます。この整備活動で僕たちが甦らせた道が、これから何十年先にも残ってほしいと思っています。

今回の茨城県北ロングトレイルは320km。全線開通には、まだ時間がかかりますが、僕は開通したら次のようになってほしいと考えます。

① 少子高齢化が顕著な県北地域に人が訪れるようになる。
② 里山に興味を持った人が再訪するようになる。
③ 移住する人が来るようになる。
④ 登山ガイドなどの仕事が増えて、経済活動が活発になる。
⑤ 少子高齢化問題に歯止めがかかる。

このような好循環になってほしいと願っています。現代日本は都市部以外では過疎化が進んでいます。県北地域（特に大子町）も例外ではありません。でも、県北地域は茨城県北ロングトレイルの他にも、皆が楽しめる自然豊かな場所がたくさんあります。

ぜひ一度訪れて雄大な自然を満喫してください。そして、友人・知人にも素晴らしい場所があるのだと広めていただけると嬉しいです。